

① 株式会社 歴清社

- ・箔のペーパークラフト 壁掛け型 鹿（銅）
- ・箔のペーパークラフト 置型 錦鯉（金）
- ・箔のペーパークラフト 置型 富士山
- ・箔のペーパークラフト 置型 達磨（金・銀）

② 宮島御砂焼 対厳堂

- ・もみじ紋 心 マグカップ
- ・オリヅルノカケラ 折り鶴灰釉ピアス
- ・三角ぐい呑み

③ 有限会社 栄光工藝

- ・組子アートパネル「麻の葉」
- ・YAMAZUMI / ヤマヅミ

④ 株式会社 内藤畳店

- ・畳縁ポーチ（大・小）
- ・ミニ畳

⑤ 株式会社 高山清

- ・utsuri
- ・ekubo

⑥ 津島織物製造 株式会社

- ・紙の健康タオル
- ・紙布スリーブ
- ・紙布バッグ KAHImini

⑦ 文進堂 畑製筆所

- ・銀河 Galaxy 溜塗 フラットタイプ
- ・【瀬戸の夕焼け】朱塗金振り3本セット
- ・黎明セット ・リップ筆 ・万能筆セット
- ・義巧・古細微頂光鋒® 極ヨリ® 11x75

⑧ 株式会社 イワタ木工

- ・MUGEN MUSOU 「Hiroshima Like」 Momiji Red
- ・MUGEN MUSOU 「Hiroshima Like」 Setouchi Blue
- ・MUGEN MUSOU 「Hiroshima Like」 Peace Green
- ・MUGEN MUSOU INFINITY 「New Wave」

⑨ 株式会社 片岡商店

- ・米袋のトートバッグ
- ・米袋の水切り石バッグ

⑩ 株式会社 庭能花園

- ・中型盆栽（アキニレ）

⑪ POP-UP 展示製品を前後半入れ替え展示

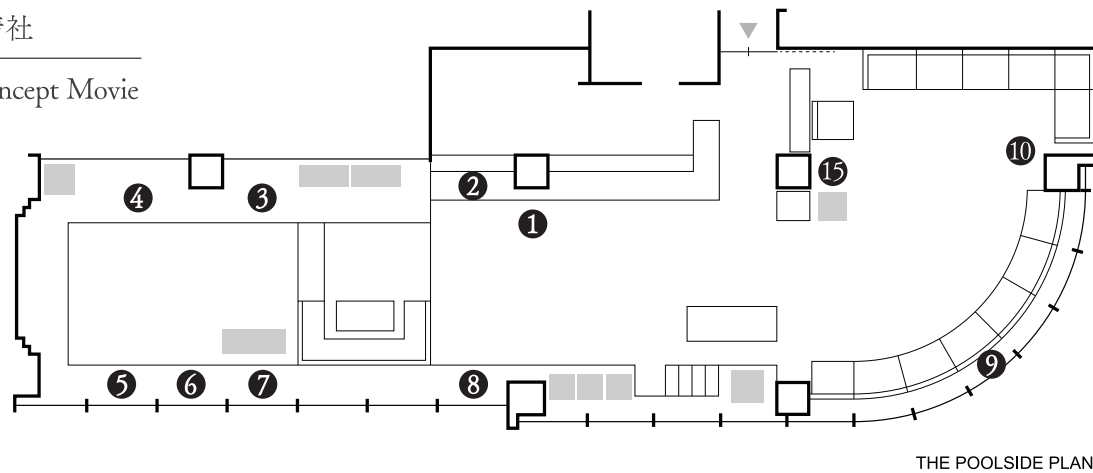
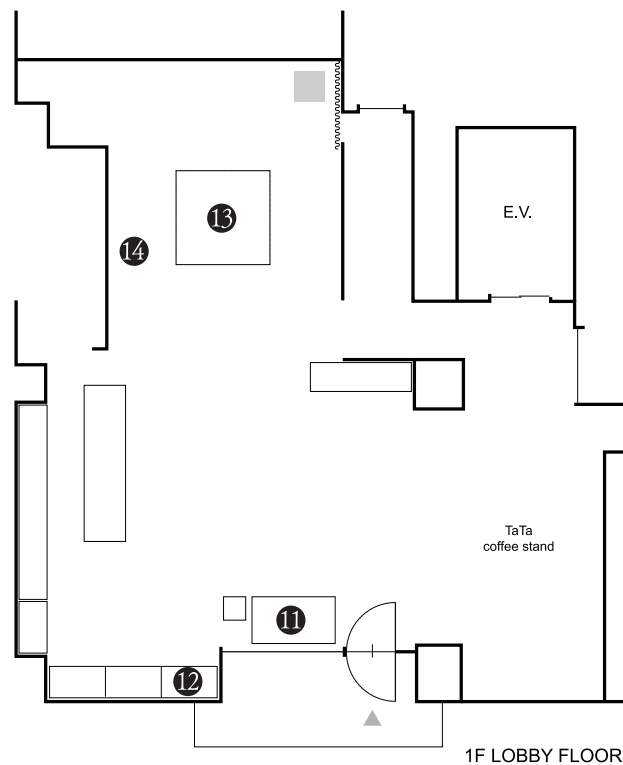
前半期 11/11（月）～17（日） 後半期 11/18（月）～29（金）

⑫ 販売製品の展示

⑬ 株式会社 庭能花園

⑭ 株式会社 歴清社

⑮ Peace Piece Concept Movie



Peace Piece
HIROSHIMA

Peace Piece

HIROSHIMA

広島復興の礎を築いた
平和のかけらたちに出会う
ものづくりの祭典

① EXHIBITION

会場：THE POOLSIDE (3F)・LOBBY TABLE (1F)

日程：2024年11月15日(金)・16日(土)・17日(日)

時間：Day 1：1:00 PM – 6:00 PM

Day 2：11:00 AM – 6:00 PM

Day 3：11:00 AM – 6:00 PM

② POP-UP STORE

会場：LOBBY TABLE(1F) & SHOWCASE(1F)

日程：2024年11月11日(月)～29日(金)

時間：7:00 AM – 11:00 PM ※最終日11月29日(金)は12:00 AMまで



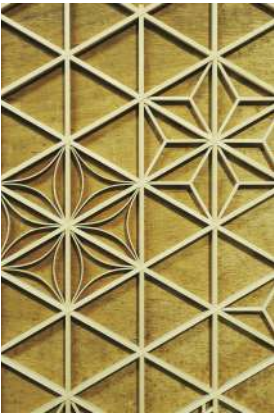
1/ イワタ木工

伝統的な日本の玩具を世界に発信したイワタ木工の岩田知真は、けん玉界の伝説的な存在だ。

子どもたちがけん玉に熱中する様子に感銘を受けた知真は、技を習得しただけでなく、その学びを「MUGEN MUSOU」の制作に生かした。名前には、秘めた無限の可能性や、質を追求する精密なものづくりに対するイワタ木工の揺るぎないこだわりを込めている。

このけん玉は伝統的なものよりわずかに大きく設計され、内側から輝きを放つようなメタリックな塗装や半透明の仕上げが施された競技用のものだ。長年の経験からしか得ることができない専門技術を使い、イワタ木工は次世代を刺激するような高品質なけん玉を作り続けている。

85-245,Touge,Hatsukaichi-shi,Hiroshima
iwata.fun



2/ 栄光工芸

栄光工芸は、何世紀にもわたり日本の仏壇に見られる精巧な木工技術を継承している。仏壇には繊細な木彫りや金箔、そして「組子」と呼ばれる格子細工が施されており、この組子細工の制作に卓越した技を持っている。

もともとはプラスチック製品を扱っていたが、1986年に自然素材へと転換。先進的な木工機械とオーナーである上畠成道の職人技を用いて、現代の技術と伝統の技を融合させている。

地元の木材を使うことや現代のニーズに沿うことも重視しており、都市部の住まいに適した小さな仏壇を制作するほか、古い仏壇の一部を新しい仏壇に組み込むことで家族の大切な思い出を受け継ぐサービスも提供する。

広島県広島市安佐北区三入4丁目7-32
eikou-woodcraft.com



3/ 片岡商店

創業127年を迎えた片岡商店は、学生かばんを専門に扱う家族経営の企業である。現在は片岡勲が経営改善に取り組んでいる。

この店の原点は、武士や大名のために柳を編んで作られていた柳行李(やなぎごうり)までさかのぼる。片岡商店のかばんはその丈夫さで知られており、学生向けのものから環境に配慮したものにまで商品の幅を広げてきた。平たい防水かばんの「さよなら紙袋」は、A4サイズの資料やノートパソコンを持ち運ぶのにちょうど良い大きさだ。

30キロの米を入れても破れない耐久性を持つ米袋を丈夫なトートバッグにアップサイクルするワークショップも開催する。持続可能であることを意識した取り組みは、商品だけにとどまらない。

広島県広島市中区十日市町1丁目3-12
kataoka-shouten.co.jp



4/ 高山尚也

当初は漆芸作家ではなかった高山尚也のものづくりには、伝統的な仏壇に関わってきた経験と細部へのこだわりが光っている。

顧客からの依頼によって漆器の制作を始めるまで、尚也は家業である仏壇の制作や修復に10年間携わっていた。しかし、器に直接触れる感覚や、食べ物や飲み物の味を向上させる漆器の力に驚き、漆器の制作を開始。G7広島サミットでは漆器が各国首脳とその配偶者へ贈られ、尚也の作品は世界から注目を浴びた。

革新的なデザインと明るい色彩が特徴である尚也の漆器は、日常生活の中で上質な工芸品を使う喜びを感じさせてくれる。

広島県広島市中区堀川町2-17
takayamakiyoshi.com



5/ 津島織物製造

江田島に位置する津島織物は、日本で紙布(しふ)を製造するわずか2社のうちのひとつである。1890年に創業し、1930年代には紙を撚(よ)った糸を顔料で染め、紙布を織る技術を開発した。

5代目の代表取締役・津島久人は父の姿を見ることで学びを得てきた。工場内の温度や湿度が材料や織機にどう作用するのかといった直感的な感覚は、長年の経験から身に付けたものだ。

紙布は通気性がよく、摩擦や汚れに強いといわれている。紙布の壁紙は時間が経つほどに耐久性を増すとされ、現代のビニールの壁紙よりも長期間使うことができる。家具のほか、繰り返し使用できるカップスリーブにも使われるなどその用途は広い。

広島県江田島市能美町中町2267-2
etajima-sihu.net



6/ 内藤畳店

1916年創業の内藤畳店は100年以上にわたって畳を作り続け、現在は内藤邦雄が3代目の代表を務めている。目の前に現れる苦難を力強く乗り越えてきたが、1945年に広島に投下された原爆によって工房が壊滅的な被害を受けたことは大きな試練だった。

編んだい草と藁(わら)から作られる畳は当初は高価なものだったが、日本の住居に欠かせない存在になっていった。畳は手作業の多い工程を経て作られるが、半世紀以上も使い続けることができる。

畳の需要は低下し、現代の素材へと転換されてきている。しかし、内藤畳店は寺院や歴史的ある建物に向けて伝統的な技法で畳を作ったり、日々の生活に取り入れやすい気軽な商品を開発したりすることで、今も伝統技術を守り続けている。

広島県広島市西区天満町11-23 内藤ビル
naitou-tatami.com



7/ 庭能花園

庭能花園を営む着能家は、400年にわたって庭園や盆栽を手がけてきた。着能松太郎は、かつては武士にしか許されなかった盆栽を誰もが楽しめるものへと進化させている。

盆栽は高齢者の趣味だという固定概念を覆すため、初心者向けにワークショップを開催し、自分の木を育てたり、自然に触れたりするきっかけを提供する。盆栽の技術は、意のままに木の形を変えていくものだと思われがちだが、松太郎は木に負担をかけず、自然と調和して対話をすることで美しさを引き出していく。

漆芸作家の高山尚也とコラボレーションして枯れた盆栽を装飾に仕上げるなど、松太郎が関わるプロジェクトの多くで対話はその根幹をなしている。

広島県広島市西区己斐上3丁目16-15-101
kakuiti.com/bonsai



8/ 文進堂 畑製筆所

文進堂は、上質な材料と熟練の職人技、そして品質を一切妥協しない姿勢で知られている。

1970年代、日本から中国・長江の涇谷へと向かった畑義幸は、高品質な毛筆を作るために必要な質の良い山羊毛を探し求めた。極めて細いこの毛は、毛筆に適したハリとコシを持つが扱いが難しい。しかし、ここにこそ文進堂のこだわりと技がある。

文進堂の職人たちは、70以上の緻密な工程からなる「練り混ぜ」技法を使って山羊毛を芸術品のような筆に仕上げていく。現在は義幸と息子の幸壮が伝統と革新を掛け合わせながら、品質を妥協することなく、筆作りの技をさらに磨いている。

広島県呉市川尻町原山1丁目5-35
bunshindou.com



9/ 宮島御砂焼 対厳堂

対厳堂は宮島・厳島神社の対岸に位置する、1912年から続く窯元である。神聖な砂を粘土に練り込んで制作するお砂焼の主な作り手であり、厳島神社の本殿下の砂を用いて神社や観光客へ商品を提供している。

本物のもみじの葉を土に押し当ててその繊細な表情を写し取った「もみじ紋」シリーズなど、展開する商品はさまざまだ。もみじは広島県の木であり、宮島のシンボルでもある。

広島島の遺産を守りたいという姿勢が反映された、「祈り」という香炉もある。釉薬には、平和記念公園の「原爆の子の像」に世界中から寄せられた折り鶴の灰を入れている。

広島県廿日市市宮島口1丁目3-39
miyajimayaki.jp



10/ 歴清社

歴清社は、ラグジュアリーホテルや高級服飾店などを彩る金箔や金属箔を手張りの壁紙を作っている。

会社の原点は、販売する商品を刀から金紙を使った屏風へと転換したこと。金箔は主に金沢で作られ、その後金紙に加工されたものが船で運ばれてくるのを長く待たなくてはならない。そのため、歴清社は真鍮(しんちゅう)を使った製造コストの安い洋金箔を用いて光沢を保つ金紙を製造する特許技術を開発した。

現在は真鍮にとどまらず、錫(すず)やアルミニウムなどのさまざまな金属箔を使った商品を展開している。高い技術が生み出す美しい色や模様は、日本のみならず世界各国で高い人気を誇っている。

広島県広島市西区三篠町3丁目20-4
rekiseisha.com



Floor map

① Rekiseisha

- Metal Leaf Papercraft: Deer
- Metal Leaf Papercraft: Koi
- Metal Leaf Papercraft: Mt. Fuji
- Metal Leaf Papercraft: Daruma

② Taigendo

- Momiji-mon Mugs
- Paper Crane Pieces
- Pointed Sake Cup

③ Eiko Kogei

- Kumiko Latticework Art Panel
- Yamazumi

④ Naito Tatami

- Tatami Border Handbag
- Mini Tatami Mat

⑤ Naoya Takayama

- utsuri
- ekubo

⑥ Tsushima Textiles

- *Washi* Paper Beauty Towel
- *Shifu* Sleeve
- Kahi Mini *Shifu* Paper Cloth Purse

⑦ Hata Bunshindo

- Galaxy Tame-iro (Flat Brush)
- Limited Edition Lip Brush
- All-Purpose Brush Set
- Gikō 1970s Kyoku-yori® 11 × 75
- Setouchi Sunset:
Set of 3 Vermillion and
Gold Leaf Brushes
- Set of 3 Kawajiri Brushes
(Siberian Weasel Hair)

⑧ Iwata Mokko Woodworks

- MUGEN MUSOU 「Hiroshima Like」 Momiji Red
- MUGEN MUSOU 「Hiroshima Like」 Setouchi Blue
- MUGEN MUSOU 「Hiroshima Like」 Peace Green
- MUGEN MUSOU 「INFINITY New Wave」

⑨ Kataoka Shoten

- Upcycled Rice Sack Bag
- Skipping Stone Upcycled
Rice Sack Bag

⑩ Niwayoshi Kaen

- Medium-size Bonsai

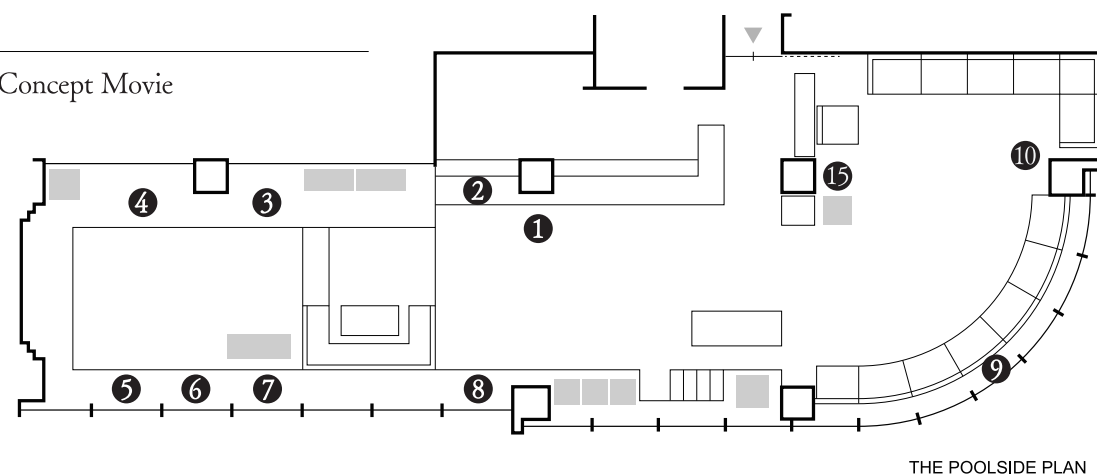
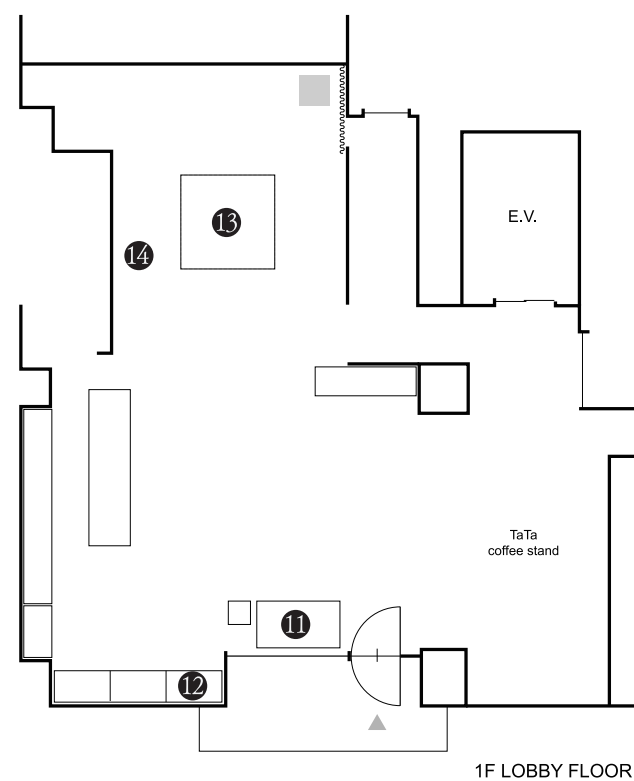
- ⑪ Pop-up exhibition (different products exhibited during Parts 1 and 2)
(Part 1: Nov. 11 (Mon)-17 (Sun), Part 2: Nov. 18 (Mon)-29 (Fri))

- ⑫ Exhibit of products for sale

- ⑬ Niwayoshi Kaen Large Bonsai

- ⑭ Rekiseisha

- ⑮ Peace Piece Concept Movie

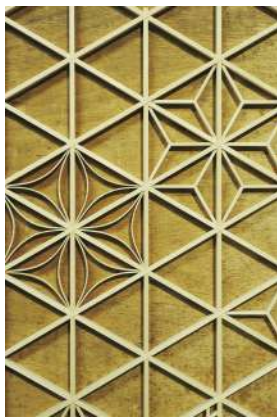


Peace Piece
HIROSHIMA

Peace Piece

HIROSHIMA

A exhibition of craftsmanship to encounter the “Pieces of Peace” on which Hiroshima’s recovery was built.



2 / Eiko Woodcraft

Eiko Woodcraft continues the centuries-old tradition of crafting intricate woodwork for butsudan Buddhist altars. These altars are decorated with delicate wood carvings, gold leaf, and kumiko latticework, where the company’s expertise lies. Founded as a plastics company, they shifted to natural materials in 1986. Using advanced woodworking machinery alongside the artisanal precision of owner Narimichi Uehata, the company seamlessly blends old and new. Diligent in using locally-sourced wood and adapting to today’s needs, Eiko Woodcraft also produces smaller butsudan that fit modern living spaces, as well as preserves family heirlooms by incorporating parts from older altars into new ones, ensuring the continuation of cherished traditions.

32-7,4-chome,Miiri,Hiroshima-shi,Asakitaku,Hiroshima
eikou-woodcraft.com



5 / Tsushima Orimono

On Etajima Island, Tsushima Textiles is one of only two companies in Japan that creates shifu paper cloth. Founded in 1890, the company developed a new process for dyeing twisted paper threads with pigment dyes and weaving them in the 1930s. The current fifth-generation head, Hisato Tsushima, learned from watching his father, who instilled in him an innate sense of how changes in heat and humidity in the factory affect the materials and looms. Renowned for its air permeability and resistance to wear and stains, shifu wallpaper also improves in durability over time, making it a sustainable alternative to modern vinyl wallpaper. Highly versatile, it is used in furniture and innovative products like reusable coffee cup sleeves.

2-2267,Nakamachi,Mino-cho,Etajima-shi,Hiroshima
etajima-sihu.net



8 / Bunshindo

Bunshindo is known for its high-quality materials, expert craftsmanship, and uncompromising dedication. In the 1970s, Yoshiyuki Hata journeyed from Japan to China’s Yangtze Valley in search of superior goat hair for crafting exceptional calligraphy brushes. This extremely fine hair has the body and bounce needed for calligraphy brushes, but is also renowned for being difficult to work with. This is where Bunshindo’s dedication to the craft comes in. Utilizing a meticulous 70-step nerimaze process, brush makers at Bunshindo turn this raw goat hair into brushes that are works of art unto themselves. Today, Yoshiyuki and his son, Koso, continue to blend tradition with modernity and elevate the art of brushmaking without compromising quality.

35-5,1-chome,Harayama,Kawajiri-cho,Kure-shi,Hiroshima
bunshindou.com

1 EXHIBITION

- Location : THE POOLSIDE (3rd Floor) & LOBBY TABLE (1st Floor)
- Dates : November 15 (Fri), 16 (Sat), 17 (Sun), 2024
- Hours : Day 1 : 1:00 PM – 6:00 PM
Day 2 : 11:00 AM – 6:00 PM
Day 3 : 11:00 AM – 6:00 PM

2 POP-UP STORE

- Location : LOBBY TABLE (1st Floor) & SHOWCASE (1st Floor)
- Dates : November 11 (Mon) – 29 (Fri), 2024
- Hours : 7:00 AM – 11:00 PM
(Last day, Friday, November 29, until 12:00 AM)



3 / Kataoka

Susumu Kataoka is head of innovation at Kataoka Shoten, a family-owned business specializing in school bags that was founded 127 years ago. Kataoka Shoten has historical roots dating back to the use of wicker yanagi-gori baskets, originally crafted for samurai daimyō. Known for the durability of their products, the company has expanded their lineup from school bags to include sustainability-minded products, including waterproof flat bags branded as “Sayonara (Bye Bye) Paper Bags” that are the perfect size for holding A4-sized documents and a laptop. Their sustainability efforts don’t end there: the company also leads workshops which upcycle sturdy paper rice sacks that hold 30 kilograms of rice into stylish and durable tote bags.

12-3,1-chome,Tokaichi-cho,Nakaku,Hiroshima-shi,Hiroshima
kataoka-shouten.co.jp



6 / Naito Tatami

Founded in 1916, Naito Tatami has been producing Japanese tatami mats for over 100 years. Now led by third-generation craftsman Kunio Naito, the company has demonstrated remarkable resilience in the face of adversity, including the destruction of their workshop in the 1945 atomic bombing. Once a luxury item, woven igusa rush and straw tatami mats became a central feature in Japanese homes. Creating these mats is a labor-intensive process, but the results are tatami that last half a century or more. Despite declining demand and a shift to modern materials, Naito Tatami maintains links with the tradition of its craft, producing handmade mats for temples and historical buildings and more casual products for everyday living.

Naitobiru,23-11,Tenma-cho,Nishi-ku,Hiroshima-shi,Hiroshima
naitou-tatami.com



9 / Taigendo

Taigendo kiln has stood across the water from Itsukushima Shrine on the island of Miyajima since 1912. Using sacred sand from underneath the shrine, they are of the foremost producers of osuna-yaki pottery which mixes this sand with clay to create products for the shrine and tourists alike. Among their diverse line of products is their Momiji-mon line that uses real maple leaves pressed into wet clay to leave an impression of the leaf, combining the prefectural tree of Hiroshima and the symbol of Miyajima. Committed to preserving the legacy of Hiroshima, their Inori (prayer) incense burner is made with a glaze that contains the ashes of origami cranes sent from around the world to the Children’s Peace Monument in Peace Memorial Park.

39-3,1-chome,Miyajimaguchi,Hatsukaichi-shi,Hiroshima
miyajimayaki.jp



1 / Iwata

Bringing a classic Japanese toy to the world, Kazuma Iwata of Iwata is a legend in the kendama community. Inspired by young kendama enthusiasts, not only did Kazuma master the kendama, he also took what he learned to create the Mugen Musou kendama. The name evokes the idea of unlimited potential, as well as Iwata’s unrivaled dedication to precision manufacturing in the pursuit of quality. Designed for competitive kendama players, it is slightly larger than traditional kendama with beautiful metallic and translucent finishes that seem to shine from within. Using specialized skills that can only be gained through years of experience, Iwata continues to craft high-quality kendama that help to inspire a whole new generation.

85-245,Touge,Hatsukaichi-shi,Hiroshima
iwata.fun



4 / Takayama Naoya

Naoya Takayama may not have started as a lacquerware artist, but his background in traditional butsudan Buddhist altars and eye for detail has served him well in his journey. Naoya worked on building and restoring altars for a decade at his family’s company before venturing into lacquerware at the request of one of his customers. This experience proved to be life-changing: he was blown away by the tactile sensation of lacquerware and how it even improved the taste of food and drink. His works gained global attention when they were gifted to world leaders and their partners at the G7 Hiroshima Summit. Featuring creative designs and vibrant colors, his pieces offer moments of joy that can be found in the use of well-crafted objects in everyday life.

17-2,Horikawa-cho,Naka-ku,Hiroshima-shi,Hiroshima
takayamakiyoshi.com



7 / Niwayoshi Kaen

Niwayoshi Kaen’s Chakuno family has been tending gardens and bonsai for 400 years. Once reserved for the samurai class, Matsutaro Chakuno is working to bring bonsai back down to earth. Hoping to smash the stereotype that bonsai are a hobby for the elderly, he runs bonsai workshops for beginners to encourage them to grow alongside their trees and engage in a dialogue with nature. Although the art of bonsai can seem to be about bending a tree to your will, Matsutaro tries to create beauty through a dialogue with them, emphasizing harmony with nature rather than control. These dialogues are at the heart of his many projects, including collaborations with lacquer master Naoya Takayama to transform lifeless bonsai into striking ornamental art.

101-15-16,3-chome,Koieue,Nishi-ku,Hiroshima-shi,Hiroshima
kakuiti.com/bonsai



10 / Rekiseisha

Rekiseisha is an innovative producer of hand-laid gold and metal leaf wall coverings that adorn luxury hotels, fashion houses, and more. The company’s origins can be traced to a switch from selling swords to folding screens decorated with gold leaf, a product mainly produced in Kanazawa. With long waits for shipments of gold leaf products, Rekiseisha turned to brass leaf as a cost-effective alternative, developing a patented method to preserve its golden sheen. Rekiseisha’s offerings now include a variety of metal leaf products beyond gold and brass, such as tin and aluminum. Utilizing skilled techniques, they offer bespoke products in an array of beautiful colors and patterns that are highly sought after in Japan and around the world.

4-20,3-chome,Misasa-cho,Nishi-ku,Hiroshima-shi,Hiroshima
rekiseisha.com